



善正寺だより

〒512-0902 三重県四日市市
小杉町1014
浄土真宗 本願寺派
善正寺
☎059-331-1670
fax:059-332-0733

掲示板法話

本当の「生まれ甲斐」に目覚める

そこに人間成就の道がある

寒い冬とコロナの第六波感染拡大の警戒期間が続きました。

彌生の春の訪れを待つ気持ちもひとしおです。昔から「暑さ、寒さも彼岸まで」と言いつつ、桜(ソメイヨシノ)の咲き始める春彼岸を待ちわびます。

彼岸とは仏の世界、お浄土のことで、此岸、すなわち我々凡夫の生きる娑婆世界と対極をなす、お悟りの世界です。先日、この世の縁が尽き、お浄土の人となられた方のお葬儀にお参りし、非常に驚いたことがありました。

コロナ禍の時期で、限られた家族、親族だけの葬儀ゆえに「自宅からのお見送りだったのですが、御葬儀を終え、いざ御出棺という間際に、美しい歌声が流れてきたのです。

「ご家族や親族の皆さんがお棺の中にきれいなお花を手向けて別れを惜しんで、涙、涙の面持ち。私もそつとお花を添えてお念仏申しました。ふと耳を澄ますとマンドリン、ギターの伴奏とともに「私のお墓の前で、泣かないでください。眠ってなんかいません。千の風に、千の風になって、あの大きな空を



吹きわたっています。...という故人の歌声でした。後でご家族にその経緯を尋ねたところ、何と十八年前、お元気な頃に吹き込んだ歌声でした。

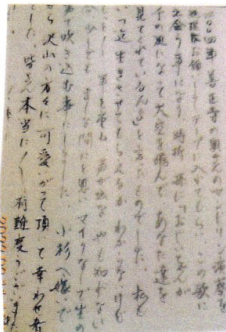
カセットテープをお貸し頂いて聞かせてもらったところ、「皆さんにかわいがつていただき、有難うございました」という言葉のメッセージも入っていました。「ご主人を亡くされてしばらく経った頃、思い立って坊守に伴奏のメロディの録音を依頼、そのメロディの上に歌と言葉を吹き込んだのでした。

彼女は、三重組コーラスの常連メンバーで、仏教讃歌を通して仏縁を深められました。自分自身にもいつか訪れる死を自覚し、「後生の一大事」を心にかけて聴聞され、「死んで空しく終わってお墓の中に眠る命ではない。本願念仏のお救いにより、お浄土に迎えとられ、仏さまに成る道を歩ませていただくのだ」と知らされ、「千の風になって」の歌声を「ご会葬の人たちに聞いてもらおう」と準備されたのでした。

後生の一大事とは、単に死後の救いではない。人間の命を頂いた本当の意

義、「本当の生まれ甲斐」に目覚めることです。凡夫の身を慚愧しつつ、真実のお浄土に救い取られて往く往生浄土の道を今歩ませて頂くことにより、限りなきいのちの世界に導かれ、安らぎの世界が開かれるところに人間成就(完成)の道があるのです。

「はやく後生の一大事を心にかけて、阿彌陀仏をかかくだのみまいらせて、念仏申すべきものなり」(白骨の御文章)と聞くご遺族が、一様に深くうなずかれたのは有難い極みでした。



★ 写真アラカルト ★



☆行事ご案内☆

◇春季永代経 講師加藤学先生

3月19(土)・20(日) 両日共午後1時半

※お経開き(招待者)19日午前10時半
(万々コロナ感染状況で中止の場合も考慮下さい)

◇三全仏教婦人会総会 (朝の時間帯に変更!)

20日(日)午前9時より 今年度は光念寺様で

【募集】4月16日(土)後1時三全仏教婦人会主催

※初参式赤ちゃん大募集!参加費千円、誰でもOK

◇キッズサンガ 夕方5時の鐘撞きは年中無休!

子供の書道作品が3月中旬から月末迄名古屋別院に展示。毎日の鐘撞きの子供に教区より表彰状贈呈

一線会テレホン法話 ☎059・354・1454

39年継続3分間で週替り法話、三重組5か寺担当

善正寺ホームページ三重善正寺で検索1年分の寺報

閲覧可。毎日更新ブログ住職と坊守のつれづれ日記

大好評!13年7カ月で37万訪問、悩み相談歓迎!

コメント欄へ俳句投稿を!孫主宰「俳句ポスト」新設

法事場所でお困りの方:本堂使用可、寺にご相談を

納骨堂:後継者の無い方、墓でお困りの方ご相談を

※三重組連研オンライン研修。3/27、4/27夜7時

善正寺が3会場の一つZOOMで参加。前2回は中止。

坊守スケッチ

難病と闘う家族の記録

最近ブログの訪問者数が増えて、原因を調べると以前のブログが人気記事に急浮上。5月2日付「難病と闘う少年一家の記録」と題する記事でした。BS朝日で紹介されたドキュメンタリー番組の私の感想です。

主人公は静岡在住の清麟太郎君(17)。彼は生まれつき色素性乾皮症という難病です。紫外線を浴びると皮膚に火傷のような症状が出て、皮膚がんになり神経障害も伴い、30歳位までしか生きられません。日本では5百人位しかいない難病です。15歳頃車椅子を使い始め、機能低下が顕著になりました。彼にとつて生きることが死に向かうスケジュールでした。

治療法がない難病だからこそ、家族は記録として残せる内に多くの思い出を作りました。祖母は彼の言葉を綴った絵本を作成。祖父は夜明け前に彼と新聞配達をして足腰を鍛えました。兄弟は手話を勉強して彼の衰えた機能をカバーし、周囲の冷たい視線に立ちあはだかりました。両親も様々な経験をさせて家族の思い出作りをしました。紫外線避けの異様な恰好を見たヨソの子供が、冷やかし半分にかからかう言葉に、母はひどく傷つきました。彼が生きた17年間は、家族が共に寄り添い、彼の重荷を一緒に背負って生きる歳月でした。現在兄は大学生、弟は中学生、祖父母は年老い、彼自身も



嚙下障害や呼吸困難になつて気管支切開も予想されます。しかし家族は一樣に口をそろえて言います。彼がいたからこそ「楽しかった」「幸せだった」。彼の難病をバネに、家族の結束が固まり、思いやり溢れる家族愛を育んだ。皆さんはこの記事を読んでどう感じられましたか？家族と共に『家族の在り方』について話し合ひましょう。

俳壇・法句

寒稽古朝星夕星眺めつつ 釋妙水

初ブル肌にしびきの弾き飛ぶ

のぼり旗あおる北風恵方巻

雑木山雪をまといて華やげり 釋榮邦

山あいの棚田に張りつく斑雪

飛び梅や合格祈願天満宮

年賀状届かぬ友は施設入り 釋住安

伊勢湾をゆつくり昇る初日かな

冬大根太く長く腰抜かす

足元に枯れ葉舞い立ち心澄む 釋瑞華

人ごみを避けたる我に弥陀の杖

独り居の話す相手は弥陀一人

節分や鬼も喜ぶ孫の句に 釋惠正

手袋を脱ぎ兄妹の指相撲 釋清風

散りてよし残りてもよし寒椿

恋猫の声甘く伸び出没す

お隣の布団たたきの音や春 釋秀龍

自転車の籠にどっさり春の雪

タイヤの遊具に腰かけ長閑かな

若坊守の子育て日記No.87

我が家の長男(小四)が俳句好きなのはご存知だと思います。

善正寺だよりにも毎月、「釋秀龍」という俳号で投句しています。

最近はややネット上や投稿誌の素人の俳句を眺めては、「ああだ、こうだ」と批評しています。

ある日、「過去の善正寺だよりの

俳壇コーナーが見たい」と言つて

タブレットを開いて熱心に見てい

ます。善正寺だよりには写真も沢

山載つてるので、幼い自分や妹

を見つけては「可愛い〜!」と自

画自賛。私も横から覗いてみると、

今は亡き方からの寄稿を発見。長

男誕生を喜び詠んで下さいました。

写真には知らない子供達の顔があ

り、月日の流れを感じます。

この「若坊守の子育て日記」の連

載は今月で7回目になりました。

七年も書いてきたのかと思う反面、

善正寺だよりは339号ですので

まだまだ先は長いと驚き、励まされ

れます。子ども達が成長するにつ

れ書くことは変わっていきませんが、

寺報で過去を振り返り、思い出話

をするのが楽しみになりました。



お悔み申し上げます

★服部きぬ子様(1月16日往生、87歳、名古屋市)

★服部つや子様(2月8日往生、行年83歳、小杉)

★林正行様(2月11日往生、行年75歳、蕨野町大羽根園柴垣町)

カシバありがとうございました

高木重明様、海野公子様、服部照子様、山本あゆみ様、水谷勝子様、他、匿名様、感謝申し上げます。

カシバありがとうございました

☆各地の法友の方々から、新たに沢山、俳句、法句(季語のない五七五句)をお寄せ頂き、勝手ながら「俳壇・法句」として掲載させて頂きました。今後、拙寺のホームページ・「お問い合わせ」欄やメール、ファックス等に送信下されば法名にて掲載させて頂きます。

☆ 編集子より ☆

「善正寺だより」339号をお届けします。◇オミクロン株の感染拡大が上昇カーブから下降に転じたのかどうか？判断する能力はないが、長い冬の間皆さん、じつと我慢の時をどう過ごされたのでしょうか？◇一人治療の日々を送る方が「独り居の話す相手は弥陀一人」との法句を寄稿され、ブログに掲載させて頂いた処、その後続々俳句等が寄せられ、「俳壇」拡張の次第。◇「自己を超える真実に遇えば、詩(句)が生まれる」とは某詩人の言葉。「本願力に遇ひぬれば空しく過ぐる人ぞなき」との和讃に通ずる。念仏諸共に苦惱を乗り越えて参りたい。

オミクロン株の猛威で不安な毎日です。この不安感はいよいよの所
為ばかりではありません。大阪のクリニックで25名の犠牲者を出した
事件、東大前で17歳少年の殺傷事件、埼玉で訪問医師を
散弾銃で殺害した事件、いずれも他人を巻き添えにした理
不尽で身勝手な犯行でした。「まさしく末法の時代。もっと寺
からかりして下さい」という檄が飛んできます。いくら私達が
頑張っても無力感を感じるご時世。親子が同居しない、お一
人様世帯が多い、葬儀や法事も簡略化、仏壇もお墓も
要らない等、寺離れ現象が加速しています。こんな時代に
寺はどうあるべきか日夜悩み続けています。せめて我が家で実
践していることをお伝えしてお法を喜ぶ家庭のヒントにして頂
いたら嬉しいです。朝7時小学生の孫二人が「お参りに来たよ」と
駆け込んできます。登校時間も迫っているのでも私たちのち
かいとという4ヶ条の言葉を唱えます。些細な試みですが、
幼い頃から一日の始まりを仏前に座る習慣をつけることは身
も心も整えて冷静沉着な判断力と他人を思いやる心を養
う一助になると信じます。現代人はキレやすく自己中心的な
人間が多くなりました。スマホの影響で家族の絆も希
薄になり、社会的に孤立し、孤独を感じている人が目立ち
ます。せめて一日に一度は、家族と仏前で合掌する余裕を
持つならば、清々しい一日が過せると思います。三月は19、
20日(いづれも午後一時半)「永代経」、20日(旦午前9時)「三全
仏母の総念」を予定しています。感染が一刻も早く治まる
ことを願っております。

合掌

令和四年 三月

善正寺坊守 拜